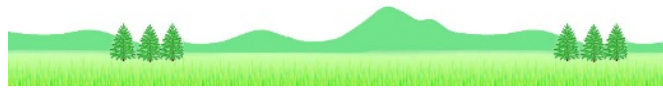


2017年10月 第56号

三重県労働組合総連合
〒514-0015 三重県津市寿町7-50
みえ平和と労働会館
TEL 059-223-2615 FAX 059-223-4495
http://mieroren.labornet.jp/

みえ労連
zenroren

疑惑隠し解散に抗議する！
市民と野党の共闘を実現し、
安倍政権NOを！



三重の介護事業所総訪問が、 国会やNHK報道にも反映

8地域全てに地域労連で、
1万人みえ労連を

みえ労連第29回定期大会を開催

みえ労連は9月10日（日）三重県教育文化会館で第29回定期大会を開催し、1年間の総括と次年度の活動方針を決定しました。大会には16組織・42名の代議員（定数45名）をはじめ70名余が参加し、質疑討論のあと全ての議案が満場一致で可決されました。大会には全労連より常任幹事の布施恵輔さん（国際局長）が出席し、連帯と激励の挨拶がありました。

大会参加の代議員のみなさん



開会挨拶
みえ労連議長
臼井さん



安倍改憲阻止をめざす3000万署名が提起され9月9日にはキックオフ集会。三重は昨年の野党共闘の経験を生かし、一回り大きな活動をお願いしたい。秋の臨時国会では働き方改革の法案が焦点となる。絶対反対の姿勢で臨む。

来賓挨拶
全労連常任幹事
布施さん



大会は臼井議長の「今年も微増ながら増員で大会を迎えることができた」との挨拶でスタートしました。方針の提案では新家副議長から全労連の「3つの基調」で運動を進めるとし、①一万人みえ労連実現のため「10人に1人の組織建設委員」をおく ②賃金底上げをはじめ、暮らしと雇用を守る運動を共同してすすめる ③戦争法を廃止し、安倍政権を退陣に追い込むなどの方針が具体的に提案されました。次いで規約改正と財政報告が提案されました。

また「市民連合みえ」の高山進さん（三重大学名誉教授）からメッセージがあり、迫っている衆議院選挙でも「市民と野党の共闘に全力を」との丁寧な呼びかけをいただきました。

議案提案

新家さん



芳野さん



の村瀬さんの発言が注目を集めました。村瀬さんは2017年5月23日、参議院厚生労働委員会で政府参考人として意見を述べました（別項参照）。みえ労連は2015年に県内の介護事業所1984ヶ所を訪問してアンケート調査を実施（回収50.3%）するなど、組織をあげて介護保険の改善に反対してきました。

が、こうしたとりくみが、いま全国から注目されています。そのほか職場と地域から平和運動に取り組んだ経験や、労働相談を通じて仲間を増やした経験、教育・保育・医療現場での取り組みなどが豊かに語られました。（各代議員の発言は2面に載せました）

最後に大会は提案された議案をすべて満場一致で採択し、臼井議長の音頭で「がんばろう！」を三唱して幕を閉じました。



発言する村瀬さん
（自治労連）

桑名市は国のモデルとなり、自立支援の名でむりやり介護保険から切り離そうとした。全国から見学があった。しかしみえ労連等（社保協・地域労連・年金者組合・新婦人など地域の団体）が介護総事業所訪問に取り組み、アンケートで「反対」の声を集めた。また介護をよくする会を作り、国会でも意見を述べた。ついに桑名市はサービスを継続することになり大きく前進した。この桑名市の問題はNHKのEテレで放送された。

ハートネットTV

「生きつらさ」を抱える全ての人に向けた新しいスタイルの福祉番組
Eテレ 毎週月曜～木曜 午後8時00分～午後8時29分
再放送 翌週月曜～木曜 午後1時05分～午後1時34分

来賓挨拶
新日本婦人の会
島川さん



日本科学者会議
前田さん



日本共産党
岡野さん



ハートネットTV9月特集 シリーズ

医療・介護改革のゆくえ

2017年9月6日放送（9月13日再放送）

この5月の介護保険法改正で、要介護度が改善し、介護保険を「卒業」することができた高齢者の割合などに応じて、市町村に財政的措置で優遇するという仕組みができた。しかしこうした措置は「自立の強制」につながる心配がある。さらに現在進められている介護報酬の見直しでは要介護度1、2の生活援助の切り下げが検討され、介護保険の「軽度者外し」がますます進行している。

番組では全国に先駆けて桑名市がすすめようとした「総合事業」が市民の反発を受けて見直さざるを得なくなっている様子が紹介される。

三重短大講師（自治労連）の村瀬さんがインタビューで登場しました。

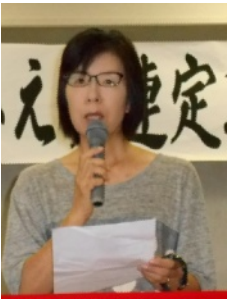
職員は、受けたくても「行く手段がない」と半数がアンケートで答えている。卒業して元気になったはずなのに行く手段がない、これは介護が必要と言ふことの証明ではないか。無理やり卒業させた結果、さまざまな矛盾が起きている。これが「モデル事業」の実態だ。（厚労省HPより抜粋して編集部で要約しました）

参議院厚生労働委員会での

村瀬博参考人発言より

桑名市は厚生労働省から来た前副市長が、国の方針に沿って地域包括システムを組み立てたという非常に「先進的」な市である。ところがこの2年間でその実態がどんなものかはつきりしてきた。桑名市は介護保険を「卒業」して地域活動（サロン等）に「デビュー」することを大きな目標にしてきた。この2年間で142名が「卒業」したことを成果としているが、その人たちが今どうなっているか。私が調べたところそのうち自費10割でサービス事業を受けている人が10%もいる。介護保険料を払いながら自費でしかサービスが受けられないようにしてしまったのだ。また「卒業」したものの重度化して、再び介護保険に戻ってきた人が20%いる。死亡した人は10%いる。元気な人を「卒業」させ

たはずなのに10%が死亡というのは多すぎる。一方、「自宅で生活」している人が40%となっているが、彼らの多くは総合事業（サロンなど住民主体のサービス）を受けていない。包括支援センター職員は、受けたくても「行く手段がない」と半数がアンケートで答えている。卒業して元気になったはずなのに行く手段がない、これは介護が必要と言ふことの証明ではないか。無理やり卒業させた結果、さまざまな矛盾が起きている。これが「モデル事業」の実態だ。（厚労省HPより抜粋して編集部で要約しました）



大原さん（教育ネット）

朝5時半に学校へ来て夜の9時、10時まで学校にいる。こんな状況が続いていたら病気になる。先生を増やしてほしい。支部会議では職場の交流や社会的くみの学習の他、採用試験の面接練習などとして、臨時教員の要求に込んでいる。



こっこ保育園の保育士です。今年第3の保育園「ことり保育園」を開園することができました。組合員も増えました。手作りの園庭も作りました。新しい保育の歴史を作っていきます。ご支援ありがとうございました。



伊藤さん（自治労連）

コープみえで働いています。生協では非正規労働者の比率が高い。コープ東海地連の講演会で藤田孝典さんが「労働組合に期待する」と語ったのが印象的。労働環境改善の活動進めたい

代議員の 発言より



落合さん
（学童保育指導員組合）

昨年、みえ労連の支援を受けて学童保育所380ヶ所にアンケートを実施した。指導員処遇改善事業を「知らない」が40%もあり驚いた。指導員の3人に2人は非常勤、社保なしが5割、賃金10万円以下が7割。でも「やりがいを感じている」「やや感じている」が80%。この献身に応えなくてはと思う。



水野さん（生協労連）

労働相談が年間280件。昨年はその中から2つの裁判に勝利したが、みえ労連の支援が少ないのは残念。日東電工では男女差別賃金を是正させ、月5万円上がった人も。組合作ったらしっかりフォローしていくこと。女性の地位向上は重要。みえ労連女性部の活発化を。

伊藤さん
（中勢地域労組）



去年10月30日のシンポジウムで地域医療の強制的な削減はしないと果は言ったが、実態はほとんど削られている。今でさえ救急車のたらい回しがあるのに、急性期病床が半分になれば救急で救える命も救えなくなる。医療機関で働く医師・看護師も切り捨てることになる。医師の過労死も起きている。社会保障改悪ストッブは待ったなしだ。

鬼頭さん（東紀州）



年金裁判を闘っている。引きつづきカンパ・署名よろしく。



田中さん（北勢労連）

月1回の幹事会時間厳守で参加者同士の交流重視。他業種の取り組み知る機会。22名も組合員増やした職場の例や北勢ユニオンの労働相談の例など、学ぶことが多い。地域労連のパワーを伝えたい。



藤井さん
（医労連）

去年10月30日のシンポジウムで地域医療の強制的な削減はしないと果は言ったが、実態はほとんど削られている。今でさえ救急車のたらい回しがあるのに、急性期病床が半分になれば救急で救える命も救えなくなる。医療機関で働く医師・看護師も切り捨てることになる。医師の過労死も起きている。社会保障改悪ストッブは待ったなしだ。



楠井さん
（福保労ぐみの木分会）



「保育士ふやして」署名にご協力を。近くの保育園で新しい組合が立ち上がった。私たちの組合のノウハウを伝えている。待遇が悪く保育士が集まらないという。9月21日にはいっしょに鈴鹿市当局と交渉する。待遇改善、そのための行政の支援を強く要請するつもり。

大崎さん
（桑員労連）



核兵器廃絶めざし、初めて平和行進にとりくんだ。3月にスタートし、太平洋セメント、市職労、教組など地域の労組に呼びかけた。いなべ市役所・東員町役場まで行進。予想の2倍70人が参加した。私たちの力は微力ではあっても無力ではない。

近藤さん
（北勢労連）



聖母の家学園で進路指導を担当している。ほとんどの障害児は高校卒業すると就労するが、聖母の家には専攻科があつて、青年期の教育を保障している。ある日、桑名の人から「組合って何？」と訊ねられた。私は「①つながること、②変わることで、③支え合うことだよ」と答えた。職種の違う人と「福祉会の会」を作った。年2回30人ぐらいが集まって飲む。「趣味以外で人となることが大事」とある先輩に教えられた。細く長くつながっていききたい。

野党共闘、市民がつなぐ



安倍政権の疑惑隠し、解散に抗議する緊急街宣

市民連合みえは9月21日津駅前「安倍首相の疑惑隠し解散に抗議する緊急街宣」を行いました。スピーチした高山進・三重大名誉教授は森友、加計学園問題を挙げ、疑惑隠し解散だと批判。「市民の声で野党共闘を実現し、選挙に勝利しよう」と呼びかけました。この様子は翌日の各紙が写真入りでとりあげ、中日新聞は「野党共闘、市民がつなぐ 衆院解散にらみ 市民連合みえ活動へ」と報じました。



平山さん（医労連）

みえ医療福祉生協四日市（いくわ診療所）で働いている。平和行進にとりくみ、長崎へ今年は3名派遣した。四日市から鈴鹿まで自転車でする「ピーチャリ」、手製の昼食で500円のカンパをいただくとりくみなども。辺野古のすわりこみに参加して、安倍政権の民主主義軽視を感した。



西崎さん（三重国公）＋全厚生争議団

国公の職場は余裕がない。まずは定員増が課題。8月はキャンプで親睦深めた。全厚生組合員は三重県で4人。7年前の社保庁解体で首切られた26名が全国でたまたまっている。1名は育休中に解雇された。署名・ハガキお願いしたい。

待望の事務局長誕生

空白だった事務局長に高岡秀基さん（43歳）が就任しました。「事務局長は運動の要。20年先のみえ労連を見据えて活動したい」と語る高岡さん。10年間かけて借入金を完済し完全取得となった「みえ平和と労働会館」とともに、みえ労連の新しい希望です。



選ばれた新しい役員

議長	臼井照男（国公）	幹事	城山明文（生協労連）
副議長	芳野 孝（北勢労連）	幹事	大塚偉介（化学一般）
副議長	木村順子（医労連）	幹事	伊藤寛修（桑員労連）
副議長	新家忠文（自治労連）	幹事	大藪 寛（建交労）
副議長	中川隆生（南勢労連）	幹事	西岡 悟（自治労連）
事務局長	高岡秀基（青年連絡会）	幹事	神部康生（国公）
幹事	辻井良和（年金者組合）	会計監査	一尾和洋（生協労連）
幹事	駒田良次（教育ネット）	会計監査	加藤友明（年金者組合）
幹事	遠藤一男（鈴亀労連）		



編集後記 大会特集号のため「おすすめレシピ」を載せるスペースが取れませんでした。次号のお楽しみに。それにしても突然の解散・総選挙。疑惑隠し・政治の私物化ここに極まり。こうなったからには市民と野党の共闘で安倍政権をぎゃふんと言わせましょう。参院選で実績のある三重が、全国をリードしよう。（吉田）